

# 令和5年産 果樹情報（第1号）

令和5年5月1日  
宮城県大河原農業改良普及センター

4月の低温による凍霜害が一部園地で発生しています。園地ごとに結実状況を確認し、適切な管理を行いましょう。

## 1 気象経過

3月の気候は、仙台で1953年（昭和28年）の観測開始以来最も早い3月26日にサクラが開花し（平年差、昨年差共13日早い）、月平均気温は「かなり高く」、月降水量は「平年並～少」、月間日照時間は「多い～かなり多い」となりました。

4月は、管内の各アメダス地点で最低気温が表1のとおり0℃を下回る日が3日あり、（去年は5日）一部園地で凍霜害が発生しています。

表1 令和5年の各アメダス地点の日最低気温（℃）

月日	白石	蔵王	丸森
4月4日	-0.1	-1.5	-3.1
4月10日	-0.7	-1.2	-2.5
4月25日	-0.1	-0.7	-2.7

## 2 果樹作況調査ほの発芽・開花状況

大河原管内の果樹作況調査ほの発芽・開花状況は、表2のとおりです。満開期は、平年に比べ、りんご「ふじ」が4月15日（白石で14日早い）、なし「幸水」が4月12日（角田で12日早い）、4月13日（蔵王で15日早い）、「豊水」が4月10日（角田で12日早い）、4月10日（蔵王で16日早い）、もも「あかつき」が4月8日（丸森で8日早い状況）と平成12年以降、最も早くなっています。

表2 発芽～開花状況

樹種	地点	品種	発芽期		展葉期		開花始		満開期		落花期	
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
りんご	白石・郡山	ふじ	3/23	3/30	3/27	4/9	4/12	4/25	4/15	4/29	5/1	5/6
		幸水	3/23	4/2	4/5	4/17	4/9	4/21	4/12	4/24	4/19	5/4
なし	角田・豊室	豊水	3/22	3/30	4/4	4/14	4/8	4/19	4/10	4/22	4/16	4/30
		幸水	3/27	4/5	4/6	4/20	4/11	4/25	4/13	4/28	4/24	5/6
もも	丸森・館矢間	あかつき	3/20	3/25	4/9	4/16	4/1	4/11	4/8	4/16	4/15	4/24
		豊水	3/24	4/3	4/3	4/17	4/8	4/23	4/10	4/26	4/21	5/5

## 3 凍霜害を受けた場合の対策

品種、斜面の上下など地形の違いにより被害程度に差があるので、場所や樹ごとに適切な管理を行います。

### (1) 摘果

予備摘果は、結実を確認してから行いましょう。また、残った果実もさび果、奇形果になりやすいので、仕上げ摘果は被害がはっきりしてから行いましょう。

## (2) 新梢管理

着果量が少なくなると樹勢が強くなるので、翌年の結果枝の花芽形成を確実にするため、芽かきや徒長枝のせん除など新梢管理を徹底し、暗い日陰を作らないようにしましょう。

## 4 樹種ごとの管理

### (1) りんご

#### イ 予備摘果

- ・ガク立ちまでは、えき芽や不良着果位置（概ね 30cm 以上の長果枝先端、骨格枝上の逆さ実となる位置など）にある果そうを全摘果しましょう。
- ・ガク立ちが確認できる満開後 10 日頃以降は、頂芽 1 果そうに 1 果（可能な限り中心果）を残し、満開後 30 日までに終わるようにします。

#### ロ 摘果剤の利用

- ・摘果剤として、ミクロデナポン水和剤 8 5 の 1, 200 倍液を使用する場合は、満開後 1～4 週間に、成木園では 10a 当たり 350～400L を目安に、展着剤を加用して、果実及び果そう葉によく付着するように散布します。  
本剤を使用する場合は、りんご品種により摘果効果が異なるので、薬害や過剰摘果とならないよう、使用上の注意事項をよく確認して下さい。

表 3 農薬の使用法 令和 5 年 4 月 19 日現在

作物名	薬剤名	使用目的	希釈倍数	使用時期	使用回数
りんご	ミクロデナポン水和剤 8 5 (NAC 水和剤)	摘果	1, 200 倍	満開後 1～4 週間	2 回以内

#### ハ カルシウム剤の果面散布

- ・ビターピットやコルクスポットの発生しやすい園地では、幼果期以降にカルシウム剤の散布を 3～5 回行うと発生が軽減されることがあります。

#### ニ 病害虫防除

##### ・ハダニ類

園地内をよく観察し、発生初期に殺ダニ剤の散布が必要です。

##### ・褐斑病

昨年発生の多かった園地では、5 月に効果の高い殺菌剤を散布しましょう。

## (2) 日本なし

#### イ 予備摘果

- ・凍霜害の影響が大きい新高などでは、結実を確認後、摘果を行います。
- ・翌年の着果量への影響が大きいので、結実状況や果実の障害等をよく確認し、着果の多い園地から摘果を始めましょう。

#### ロ 仕上げ摘果

- ・凍霜害を受けた果実はサビ果、奇形果になりやすいので障害がはっきりしてから行います。
- ・満開後 45～50 日頃までに、果そう葉が多く、果形の良い大きい果実を残します。  
○幸水：目安は、短果枝が 3 果そうに 1 果、長果枝が 2～2.5 果そうに 1 果  
○豊水：目安は、4 果そうに 1 果

## ハ 新梢管理（芽かき）

- ・凍霜害を受け着果量が少なくなると樹勢が強くなるので、新梢管理を徹底します。
- ・不要な芽を整理するため、主枝や垂主枝の背面から発生した芽や、太い切り口から発生した上向きの強い芽は早めにかきとります。

## ニ 病害虫防除

### ・黒星病

開花後は、果そう基部病斑からの孢子飛散が主になり、濡れ時間が20℃のとき9時間あると感染が成立すると言われていています。果そう基部病斑のある果そうは除去し、園外で処分します。果そう基部病斑のある果そうは、りん片が脱落しにくいので見つけるポイントとなります。

### ・アブラムシ類、ニセナシサビダニ、アザミウマ類

発生初期に防除を行います。

## (3) もも

### イ 摘果

- ・凍霜害を受けた園地では、結実や生理落果の状況及び果実の障害を確認してから行いましょう。
- ・仕上げ摘果は、満開後40日頃から硬核期開始の満開後50日頃までに実施し、硬核期終了後に修正摘果で適正着果量とします。
- ・着果量の目安：長果枝は1～2個、中果枝は0～1個、短果枝は0～1個です。

### ロ 新梢管理

- ・5月下旬～6月中旬頃は新梢の生育が最も盛んな時期なので、樹勢の強い樹や若木等では樹冠内が混雑しやすくなります。樹冠内部、主枝・垂主枝・側枝の基部など徒長しやすい新梢は早めに摘心や夏季せん定を実施し、全体に光が当たり、風通しが良くなるように心がけます。
- ・硬核期間中の過度な夏季せん定は、核割れや生理落果を助長するおそれがあるので最小限とし、硬核期終了後に実施します。

## ハ 病害虫防除

### ・灰星病

花腐れや花腐れから進展した枯れ枝は切除し、園地外で処分します。

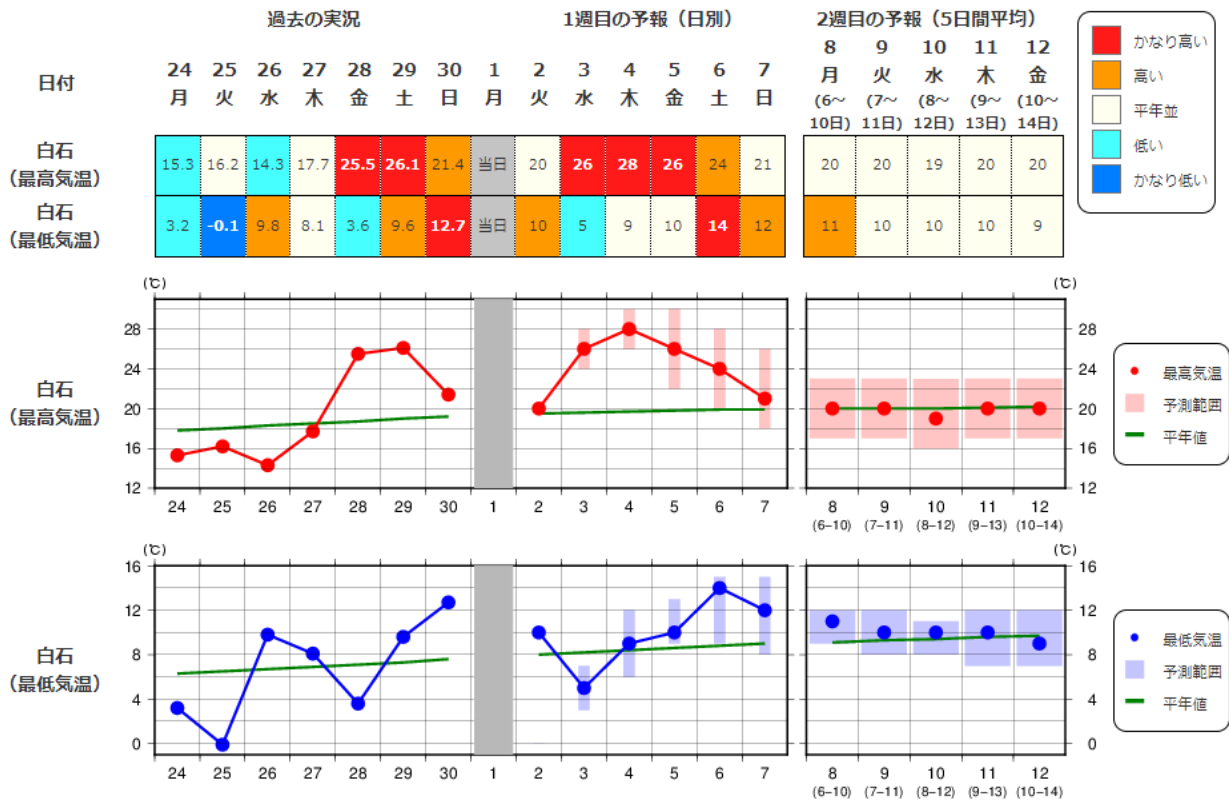
### ・ホモプシス腐敗病

枝折れが見られる場合には見つけ次第切除し、園地外で処分します。

### ・せん孔細菌病

1年枝の枝皮部の黒変や新梢葉の生育不良を目安に、一次伝染源である春型枝病斑は切除し、園地外で処分するとともに、雨を伴う強風が吹いた後はただちに防除を行います。

## 5 2週間気温予報（気象庁HPより出典）



### ー農薬の適正使用についてー

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム：<https://pesticide.maff.go.jp/>